

令和 5 年度（2023 年度）第 2 回 熊本市社会教育委員会議
議事録

【開催日時】 令和 6 年（2024 年）3 月 18 日（月）10:00～12:00
【開催場所】 熊本市役所 本庁舎 12 階会議室

【出席者】

■ 社会教育委員

八幡 彩子 委員
加藤 貴司 委員
中川 保敬 委員
原 幸代子 委員
林田 真 委員
萱野 晃 委員
杉本 誉弘 委員
濱本 伸司 委員

《欠席者》

田川 智恵子 委員

■ 事務局

石坂市民生活部長
《生涯学習課》
大石課長
松崎主幹
福田主査
魚住社会教育主事
村上主事

《関係課》

文化財課長	村上 史郎
こども家庭福祉課主査	山下 大輔
スポーツ振興課課長	岡島 史明
教育政策課長	中川 浩二
地域教育推進課長	原口 琢哉
熊本市立図書館長	山内 光博
熊本博物館長	坂本 康祐
指導課教育審議員	清水 宏一郎

<会議内容>

- ・【議事(1)】 学校・家庭・地域の連携協力推進事業等の実施について
- ・【議事(2)】 様々な立場の人たちが生涯学習を行うには(自由討議)
- ・【報告(1)】 令和 6 年熊本市はたちの記念式典の報告について
- ・【報告(2)】 第 2 次熊本市生涯学習推進計画の最終案について

発言者	発言要旨
	【開会】
	【部長挨拶】
	【進行の依頼】 八幡議長に進行を依頼
【議事(1)】	学校・家庭・地域の連携協力推進事業等の実施について 関係課説明
【質疑応答】	事前質問及び当日の質問等に対する回答
スポーツ振興課	(事前質問への回答) 「自主運営の教室として、いくつの学校で継続しているのでしょうか」への回答として、現在、一新小学校 1 校だけが自主運営につながっておりまして、他にも 3 校ほどは自主運営へつながった時期がありましたが、途切れています。自主運営につなげていく努力が課題だと考えています。
熊本博物館	(資料内データの更新について) 7 ページの令和 5 年度の実施状況についてですが、資料の数字は 1 月末の集計値となっておりますので、現時点での数字に修正します。 令和 5 年度は当初から 30 回程度の開催を予定しており、感染症拡大防止の緩和措置等もありまして、最終的には 25 題材で、計 53 回の実施となる見込みです。 運営方法につきましては、昨年同様、事前の応募生がほとんどでしたが、一部の教室では久々に自由参加制で開催することが出来ました。 あと数回の教室を残しておりますが、参加者総数は、前年度最終実績の 1,040 人を超えて、1,300 人程度になりそうです。 また、NPO 団体や大学等との共催事業を継続しており、公設公民館等からの要請に応じて、同様の出前講座の実施、本事業の周知広報に努めています。
こども家庭福祉課	(資料内のデータの更新と事前質問への回答) 8 ページの資料には、12 月末時点での実績を掲載しておりますが、直近 2 月末時点では、実施回数が延べ 369 回、受講者数が延べ 3,957 人となっています。 実施校数が増えたこともあり、昨年度の延べ受講者数が 2,615 人に対して、2 月末時点でもおよそ 1,350 人の参加者数の増となっています。 次に令和 6 年度についてです。令和 5 年度からさらに、2 校の追加を目指して、12 校での実施に向けて調整を行っています。 次に杉本委員から、「放課後学習教室の学校での成果や課題について、全学校で情報共有が出来ませんか」との質問がありました。 これについては、今後、成果や課題について、情報収集や取りまとめの方法などを考慮し、各校に情報共有できるように検討していきたいと考えております。

発言者	発言要旨
生涯学習課	(事前質問への回答) 杉本委員から、家庭教育学級の新たな方向性について、御質問いただいておりますので回答します。 家庭教育学級については、ここ数年就業される保護者の増加などもあり、学級の世話役を担っていただく方も少なくなってきたことから、参加者は減少傾向にあり、これまでの実施形態では、持続可能な運営が難しくなっていると認識しています。 現在のところ、新たな方向性はなく、公民館に配置している社会教育指導員に教員経験者を増やすなどして、積極的に働きかけを行っているところです。続きまして、会議資料の２ページに戻っていただきまして、原委員からの質問になりますが、２の（４）の、本市における学校、家庭、地域の連携による地域学校協働活動について、ここに挙げております、（ア）から（オ）の５項目に加えて、次代を担うこどもが地域に愛着を持ち、故郷を誇りに思い、ここに暮らしてよかったと思えるような取組も大事であるため、例えば、地域の伝承、伝統文化教室などの開催を追加してみてもとの御意見をいただいています。 ここに記載している５項目につきましては、文科省へ補助申請している取組ではありますが、次代を担うこどもへの取組は、必要であると考えますので、現在策定中の第２次熊本市生涯学習推進計画の中で、重点事業として、伝統文化教室や多文化共生の取組を展開していきたいと考えています。 最後に、八幡議長からの全体的な意見として、地域で必要な人材を育て、活用定着につなげるアイデアを委員の皆様から御意見をいただきたいと伺っておりますので、後ほど、委員の皆様からの御意見をいただきたいと思います。以上をもちまして、議事(1)の説明及び事前質問の回答を終わります。
八幡議長	議事(1)について、追加の質問等がございましたら、こちらで受けさせていただきますと思いますが、いかがでしょうか。
杉本委員	本校は１００％の方がＰＴＡに参加していますけれども、学校によってはＰＴＡの参加が厳しい状況になっています。 このような現状で、本市ではどのような形で家庭教育を進めていくのかというところが必要だと思ったので、事前質問を出させてもらいました。 やはり、本市の方向性を今後、考えていくことが必要だと思います。そのため、いろいろな良い取組がありますが、それをしっかり一本化して、どのように進めていくかということが大事だと思いますので、その検討をお願いいたします。
八幡議長	担当部署の一本化、あるいは窓口についていかがでしょうか。
生涯学習課	現在組織的には、公民館は教育政策課に位置づけられているのですが、令和６年度から、公民館の運営についての所管は生涯学習課で、組織的には地域教育推進課に位置づけられます。

発言者	発言要旨
	これからより一層、地域教育推進課と当課が連携して協力しながら、そういった方向性についても考えていかないといけないかと思います。御意見どうもありがとうございました。
八幡議長	学校側から、例えば PTA 総会などを利用するような取組に関して御要望などがございましたら、お話を伺えればと思います。
杉本委員	本校は PTA の組織がしっかりしているので、PTA のほうで全部進めていかれるのでいいのですが、学校によっては PTA で進めていくことが厳しくなっているのではないかと思います。そういうところには支援をしていくことが必要ではないかと思います。 特に、家庭教育の件については、PTA の参加が協力的なところは必要ないけれども、逆にそういうところに協力的でないところのほうが必要だということも考えられるので、その辺りも連携しながら、学校と勉強しながらやっていく必要があったかなと思います。
八幡議長	私もこどもの PTA 活動でこういう行事の案内等をいただいたことが多かったのですが、仕事により出席しにくい状況でした。ただ、活動されている方の様子をみると、やはり意義のある活動なのだろうと思います。 支援について、実施形態等も含めて検討いただきたいと思います。 また、原委員から次代を担うこどもが地域に愛着を持ち、故郷を誇りに思い、ここに暮らしてよかったと思えるような取組について、ご提案をいただいております。
原委員	私の提案は、部活動が地域に移行するなど、熊本市の方針としては、既にあるところではあります。 ただ、社会教育でこどもを対象にしたときに、こどもの人間教育に非常につながっていくのではないかなというふうに思っています。特にこれからは、グローバルな時代を迎えるわけですから、自分の住んでいる町はどのようなところで、どのような特長を持っているかを、こどものときから認識していくことが大切ではないかなと思います。 そしてさらに日本の文化を誇りとして、世界に出たときに胸を張って言えるような人材育成をしていくべきだと考え、ここで提案しました。 それと、今の御説明を聞きながら思いましたが、受け手の立場に立った発信などの情報発信の仕方が重要で、さらに皆さんに参加してもらえるような在り方を今後構築していく必要があるのかなというのを思ったところです。
八幡議長	ありがとうございます。 学校の教育のグローバル化に関しましては、多分二つの流れがあります。日本のこどもたちにいかに世界につながるような力を育むかということと、日本の地域自体がいろいろな国籍を持つお子様方を受入れていくという多文化共生の視点です。そうした日本語教育の視点でいうと、杉本校長先生の学校は、熊本市の拠点校の一つということで随分御尽力をいただいていると思

発言者	発言要旨
	うのですけれども、その辺りいかがでしょうか。
杉本委員	そうですね。本校は拠点校にはなっていますが、日本語指導を受けている児童は1人しかいませんので、ほかの地域と比べると、その辺りはまだまだかなと思います。 ただ本校の2人の教員が、いろんな学校に行って日本語指導しておりますが、日本語の指導が必要なこどもたちは年々増えていると感じています。熊本市の場合は拠点校をつくって、こどもたち自身もこの日本語指導によって伸びてきているという状況があるので、それはとても素晴らしいことだと思います。
八幡議長	はい、ありがとうございました。 今年度はうちの教職大学院の方がそうした指導に理解を高めるリカレント教育ということで事業を行い、拠点校の先生方にもお世話になりました。 また、九州ルーテル学院が、インターナショナルな小学部をつくるという発表をされており、小学部からも授業の中で英語を使うという教育を熊本でもやろうというような流れが私立の学校では始まっています。公立がどう対応するのかというのは、考えていかなくはいけない課題だと思いました。 ほかに、熊本市以外の学校ではコミュニティスクールとして地域の問題に学校も一緒に考えていく体制づくりがありますが、熊本市ではどうするのかということが課題になると思います。次年度以降、その地域の特色を打ち出しつつ、課題解決にどのように取り組んでいっていただくのか、学校と地域と一緒に考えていただければと思います。 他にはいかがでしょうか。はい、萱野委員。
萱野委員	御報告いただいた中で、社会福祉協議会の事業で二つぐらいが関係するかと思います。はじめにボランティアに関してです。社会福祉協議会でも様々なボランティア養成講座を開講していますが、身に付けた技術を活かす具体的な活動になかなかつながらないということを聞いています。例えばこどもチャレンジ公民館ではボランティア等が中心になってやられている部分もあるということですから、そういった部分は連携出来ないのかなと思ったところです。 次に、地域の中での子育てや家庭教育の話がありましたが、社会的に子育てが注目されていて、こども局も出来ています。社会福祉協議会では民生委員児童委員が児童の福祉、地域での子育ての応援ということで重要な役割を持っているということを、この機会に知っていただきたいです。今後は地域での子育てで民生委員等と一緒にいける部分も検討していきたいと思います。
八幡議長	福祉の分野では、例えば教員養成のときは介護等体験で5日間程度お世話になりました。あとは、中学生の介護体験でも講師を派遣していただきました。

発言者	発言要旨
	いろいろ連携の在り方はありますが、そうした活動がもう少し広がりができればいいと思っております。 その辺りは、後ほど連携の在り方というところに関しての御意見として頂戴できればと思っております。
八幡議長	議題の学校・家庭・地域の連携の事業にはボランティアの協力が必要です。大学生に協力はいただいているが十分な数が集まらない。人材の確保や育成についてもう少し議論を深めたいと思います。 まず、熊本大学教育学部の例を示しますと、以前から、不登校支援のユア・フレンド、放課後のこどもたちの活動を支援するフレンドシップ事業、公民館ではメイクフレンズというような活動で学生が関わっています。 令和7年度からの教員採用試験では、このようなボランティア活動の実績により一次試験が免除されるという制度が始まる予定です。このようにボランティア活動を促す動きも出てきてはいるが、限定的だと思います。 地域で次の時代を担う若者を育て行くための工夫についてもご意見を願います。
生涯学習課 (魚住社会教育主事)	こどもチャレンジ公民館やこども講座で、熊本大学メイクフレンズや熊本保健科学大学の学生たちが北区の公民館にボランティアとして来てくれています。特にメイクフレンズでは1年生の加入が多くて、来年度は8館の公民館と連携を図ることができるようになりました。 メイクフレンズの学生は一生懸命こどもたちに関わってくれており、公民館としても助かりますし、メイクフレンズの学生たちも社会に出てからの力になると思いますので、本年度、来年度と枠を広げられたことで公民館は大変助かっています。
八幡議長	ありがとうございます。 本当に公民館の社協主事の先生方からも学生を育てていただいていますね。
加藤委員	前回の会議で、教職大学院のストレートマスターと言われる人たちが、大学生よりも比較的に時間が取れるという話があったと記憶していますが、いかがでしょうか。 以前、市でスポーツ教室をする際に中川委員のところにいた学生に指導をお願いしていましたが、コロナで中断されていました。今後、大学院生に協力いただきたいと考えていたのですが、現状はいかがでしょうか。
八幡議長	以前、修士課程の大学院があったときは定員が50名いましたが、定員が30名に減り、さらにそのうちの6名が現職の先生でありますので、人数が不足しています。さらに1年の後期から学校に足を運んでの教育活動がメインになってきていますので、大学院生の活用は難しいかと思います。
加藤委員	いろいろな取組する中で、リーダーや指導者の確保が課題になっています。 特別な資格などを必要としない活動。例えば昔の伝統を伝える行事などでは、老人会に依頼し、老人会の中から出してもらうというやり方で人が集まって

発言者	発言要旨
	います。 イベントの際に老人会に、「川上小学校の１年生のためですよ」や「昔からこの老人会からでていっているんですよ」と声を掛けると人が集まっています。このように個人を指定するのではなく、団体を通してリーダーを確保するという方法も効果があると感じます。
八幡議長	はい、ありがとうございます。 もう熊本大学の教育学部生も数が減ってきていますので、いろいろな大学が協力しないと、学生ボランティアというのが確保出来ない状況にあります。高齢の方も、こうした活動に積極的に関わっていただくことで人材を確保するというのも非常に重要なことだと思います。 濱本委員は何かお考えでございますか。
濱本委員	私も学生数が減っている中で、どうやってボランティアを確保するかは重要だと考えています。 私も幾つかの大学で産学官連携の授業を担当していますが、そのうち北九州市立大学の地域創生学部では、大学在学中の４年間で地域に関する課題に取り組むというカリキュラムを行っています。基本的に教員はアドバイスのみで、学生たちは１年時に決められたテーマに沿い、自主的に地域の人たちとやり取りを行うというものです。 このように中長期的にはなりますが、地域に根差した大学をつくっていかうというところに関しては、新たなカリキュラムの創設などの方向性に向かっていくだろうと思っています。 とはいえ、そういったことは時間かかるので、今を考えたときに、一つは、八幡議長が挙げたゼミ活動が重要だと思います。自主的に行動できる学生は減る中で、ゼミやインターンシップに力を入れる学生は増えてきています。そのため、社会教育のインターンシップやゼミ活動を行う環境を整えれば、乗ってくれる学生や大学が出てくると思います。 一方で、産学官がお互いの課題や理解を認識したうえで協力し合って進めていくとなったときに、コーディネーターと呼ばれる存在が必要になってきます。社会人のコーディネーターもそうですけども、例えば学生向けのコーディネーター養成講座をつくるのもありではないかと思いました。 もう一点追加しますと、私は今、商工会議所と台湾の大学生と一緒にインターンシップのような取組を行っているのですが、その中で、外国からの人々をいかに地域の社会教育につなげていくかということが結構大事な要素になると思いました。そのあたりの仕組みづくりについて、もっと考えてもいいのかなと思います。私からは以上です。
八幡議長	ありがとうございます。 熊本大学ではそのようなカリキュラムは少ないですが、熊本県立大学などでは対応できるのではないかと感じます。

発言者	発言要旨
	中川先生、何か御意見はございますか。
中川委員	ボランティアの確保の話が続いていますが、ずっとボランティアで行うということはありません。 ボランティアの役割は重要です。しかし、学校教育の先生のように社会教育にも専門になる人材が必要なはずですが、そういった専門職は少ない状況にあります。今は学生に頼っているところもありますが、学校から切り離して職業化していく。職業化した専門家とボランティアが協力してやっていくことが必要だと考えます。 部活動を例にしますと、今のやり方をそのままボランティアや地域に移行するのではなく、ボランティアや地域に任せるところと職業化するところを合わせていきながら、すべての人が部活に参加できる環境を作るといった形になります。 教育についてはお金と結びつけるのを避ける傾向がありますが、お金と教育価値を一緒にして考えて、ボランティアに頼らない社会教育のシステムを作らないと持続できないのではないかと思います。 また、このように社会教育がしっかりしていくことで、学校がこどもとの時間をしっかり持てるようになると思いますし、学校にとって重要だと考えます。
八幡議長	学校も含めてアウトソーシングできる受皿やシステムづくりについて御意見を頂戴したかと思います。ありがとうございます。さすが NPO や仕組みづくりをされている第一人者の御意見だったと思います。
原委員	すいません。私も知的障害者のスポーツ団体にボランティアとして関わっておりますけれども、そのボランティアの責任と権限というのが、そこに来られる方によって様々です。 ボランティアは、いわゆる時間と労力の提供というところで、責任と権限からは切り離されているといつも感じています。その一方でボランティアによって自己実現や達成感を得ることができると考えています。 自己実現や達成感を体験するには、今あるシステムの中に押さえ込むのではなく、参加者にどういうことができるかを投げかけて、そこで考えさせることが大事だと思います。 ユア・フレンドにしても、既存のものに少し新たなものを加えていくようなシステムづくりが必要ではないかと思いました。 それともう一つは、私たちの団体にある高校生のボランティア部についてです。そこで活動している子たちはやりたいことについての意見出しや説明会などを積極的に行います。 このような様子を見ていると、受け身でボランティアをやってもらうのではなく、こどもやお年寄りでも自主的にできるような経験をしてもらうことも大切ではないかとボランティア活動を通して思っているところです。

発言者	発言要旨
八幡議長	ありがとうございます。 議事の２番目と原委員が挙げてくださった学び手の視点のお話が関連するのではないかと思います。「様々な立場の人たちが生涯学習を行うには」ということで、議題に挙げた趣旨のご説明をお願いいたします。
【議事(2)】	様々な立場の人たちが生涯学習を行うには(自由討議) 事務局説明
八幡議長	はい、ありがとうございました。 ボランティアの確保だけではなく、多様な学びの機会をいかにつくっていくかということについて、いかがでしょうか。 15分程度の時間で意見を伺いたいと考えていますのでお願いします。
林田委員	先ほど原委員のほうから、高校生のボランティアというようなことがございました。 私のところは中央公民館の指定管理にも携わっていますので、公民館でのことを報告します。必由館高校の高校生がお年寄りにスマートフォンの講座を実施しました。高校生はいろいろな話を聞き、お年寄りは孫のような存在の高校生からスマートフォンの使い方を学べるという、参加者同士に実りのある取組だったと思います。 次に、社会教育法の第23条の解釈の拡大についての話です。 地域のためになる場合は民間企業も受け入れていくという内容でしたが、具体例を読んでもみると熊本市に合うものか疑問に思うこともありました。 いろんな形の公民館事業に対して事業者が入っていけるような環境が整ってきているのかを教えていただきたいです。
八幡議長	ありがとうございます。公民館との連携ということで、そのあたりは生涯学習課さんのほうで事業に活用していただくための体制を整えていただくというような支援が必要になるのでしょうか。
生涯学習課 (魚住社会教育主事)	今ありました社会教育法23条の解釈は、全国の公民館でも1番悩んでいるところです。 文科省から前年度末に通知が来ましたが、社会教育法第20条の「公民館の目的」に合致しており、民業を圧迫しない程度で行なっていただくことになっています。そして、地域ごとに必要な事業は異なっており、その判断も各公民館で違ってまいりますので、その辺も含めてどう進めていくのが難しいところだと思っています。またその辺は研究していきたいです。 さきほど、林田委員がおっしゃったのですが、高校生ボランティアの件は中央区の公民館が一緒にやろうということで、高校生や学校に声をかけて本年度事業を進めてまいりました。 高校生がマンツーマンで教えてくれるのですが、高齢者の方も自分でこういうのを聞きたいと、いっぱいメモしていました。雰囲気も和やかで、これは開催してよかったと思いました。

発言者	発言要旨
	また、大江公民館では、小学生を対象にした学習講座も行いました。 こちらも、お兄さんお姉さんの年齢である高校生がマンツーマンで教えてくれるので、小学生にとって良い体験になったと思います。 高校が中央区に多いので、なかなか近くに高校がないところは難しくなるのかもしれませんが、そういった取組も広げていきたいと実際に活動を見て思いました。
八幡議長	スマホ教室は昨年度、長嶺中学校の中学生が地域の方と一緒に行いました。 地域と協働する問題解決学習というのをやりまして、それも非常に好評でした。学校もいろいろ地域との交流事業ということに取り組んでいます。(手が挙がる) どうぞ。
原委員	地域とのつながり、人とのつながりを考えたときに、熊本市内の文化財施設を活用できると思います。 地域の集まりや、朗読会など公民館などで行っていたものをジェーンズ邸のような文化施設を活用することで魅力あるものにできるのではないかと思います。 また、オンラインの活用も重要です。対面とオンラインを併用するなど多様な手段を用いる必要があると思います。
八幡議長	ありがとうございます。 熊本市外の小学校、例えば今年、武蔵ヶ丘小学校で TSMC のお子様を 1 人受入れておられるという学校はもうコミュニティスクールということで、運営組織の中にそうした地域の代表者に入っていて、地域の特色を生かした学習活動をいかに展開するかっていうのをアンケートしていると、うかがいました。そういう地域に開かれたっていうところを売りにしている学校もあるということですが、負担にならない程度での学校づくりについて何かご意見をお願いいたします。
杉本委員	熊本市にはコミュニティスクールがないため、城南小学校がモデル校になって準備をしています。地域の核になる人として、学校支援ボランティアのリーダーになる方にコーディネーターとして地域との連携を図ってもらいたいと考えています。 コーディネーターの役割はやりがいがあるが無償では対応が難しいところがあるとの意見が出ており、地域教育推進課で要求しているのに合わせてモデル校として予算が必要であることを発信していきたいです。
八幡議長	地域教育に理解がある校長先生と、地域とのつながりが弱い校長先生では、学校運営の在り方にも違いが出てくるところがあるのでしょうか。
杉本委員	違いはあると思います。 私には社会教育主事の経歴があるため、地域と連携することが大変でも連携が進めば、こどもたちの見守りをしてくれるとか、私たちのいろいろな生徒指導の部分の負担が減るといったことができます。今の城南小学校ではその

発言者	発言要旨
	ような連携が進んでいます。 モデル校として取り組んでいるので、地域教育にまだ理解が行き届いていない管理職への啓発を進めたいと考えています。
八幡議長	お力添えをよろしくお願い申し上げます。ありがとうございました。 いろいろな連携の在り方があると思いますが、熊本市役所と大学との連携、そして放送大学ともぜひ連携を強化していきたいというようなことを考えておられるようですので、私のほうから参考として資料を準備いたしました。この様式 2-1 というので出させていたideているもので、たまたま熊大が市民向けの公開講座っていうのを募集しております。ちょうど今年度は熊本市役所の第 8 次総合計画の立案の期間でしたので、そういうものの PR も含めて、計画の御説明をできるような方を大学にお招きして、市民向けの公開講座をさせていただくのであれば、そのための機会提供も可能ではないかと例として挙げさせていただきました。 例えばこういうのが、市役所と大学との連携事業みたいなので、割とできるかもしれません。 これ以外にもいろんな企画などを持ち寄っていただいて、大学を御活用したいという声があれば大学も応じられる体制というのはあるのかなと思っています。 あくまでも参考でということで、資料のほうを配付させていただきました。もう少し意見をいただきたいのですが、どなたかお願いできますでしょうか。
濱本委員	今回の議事内容や皆さんの意見をいただいて、私もどういうふうに判断すればいいのかと迷う部分も結構ありました。 何か絶対に作らないといけない制度や仕組み、達成目標などをどうしていくかという話と、現状に則したところでの必要なものや機会の提供が大事だという話が混ざっていたので、その辺りをもう少し整理できるとさらに良いのかなと改めて思ったところですね。
八幡議長	「つくっていかねばならない」ということとなるとハードルが上がる内容ではありますが、今回のこの推進計画の「100 歩歩けば 100 倍幸せ」という自主性を重視するトーンでいうと、私たちがどんなことをやりたい、何ができるのかっていうところを大事にしたいのかなと私は思っていますが、それでは、少し足りないという方もいらっしゃるかもしれません。生涯学習課さんのコンセプトとしては何かお考えですか。
生涯学習課	コンセプトといいますか、こちらの生涯学習推進計画と、令和 6 年度からになりますけども、この社会教育委員会議自体がこの計画の進捗管理をしていくような会議でもあります。令和 5 年度までに取り組んだことに対する課題や、課題に対する方向性というのを示した評価シートがありますので、その評価シートにおいて、皆様から御意見をいただきながら、令和 6 年度の会議は進めていくような形になります。

発言者	発言要旨
八幡議長	ということでしたら、また次年度に向けてできるのかということを探求いただき、それぞれお考えいただければと思っておりますので、何とぞよろしくお願い申し上げます。 それでは議事(2)を終了しまして、報告案件に移らせていただいてよろしいでしょうか。 それでは報告の1番目「令和6年熊本市はたちの記念式典の報告について」と、報告2番目[第2次熊本市生涯学習推進計画の最終案について]、2件まとめて生涯学習課さんのほうから御説明をお願いいたします。
【報告(1)(2)】	事務局説明
八幡議長	ありがとうございます。 こちらの別冊1でも第1歩、第2歩、最後のほうが第99歩というような章立てにさせていただいて、なかなか工夫をしていただいて興味深く思ったところです。また、最初の御意見にダイジェスト版もすごろくのように見やすくされていると、割と好評な御意見を寄せていただいているので、提供を楽しみにしているところです。 委員の皆様方から何かご意見がないようでしたら、今日はこのあたりで会議を終了させていただきますが、よろしいでしょうか。 はい、ありがとうございます。それでは、事務局にお返しします。
	【閉会】